



## 『大腿骨近位部骨折地域連携パス』について

整形外科

高木 泰孝

大腿骨近位部骨折とは、脚の付け根の部分の骨折の総称です。高齢者など骨が脆くなっている方（骨粗鬆症）に多い骨折です（図1）。閉経後女性ホルモンの関係があり女性に多くみられます。日本では、大腿骨近位部骨折は年間20万人発症しています。当院でも年間約100件の手術を実施しており、高齢化に伴い、大腿骨近位部骨折の患者数は、今後さらに増加すると推測されています。

健常人やその他の骨折患者と比較して、骨粗鬆症を有する大腿骨骨折の患者の生命予後は、悪いことが指摘されています。また大腿骨近位部骨折は高齢者に発生し、寝たきりの大きな原因です。寝たきりを防ぐためには、手術による早期離床、入院及び通院によるリハビリテーションや骨粗鬆症治療による転倒・骨折予防などの一貫した治療が必要です。

—あしのつけ根—



図1

そのため、2024年1月から『砺波医療圏 大腿骨近位部骨折地域連携パス』の運用を開始しました。従来の一病院完結型の医療ではなく、当院で入院・手術を行った後、回復期リハビリテーション病棟等を保有する回復期病院に転院し集中してリハビリテーションを行うことで、早期に在宅復帰を目指すものです（図2）。

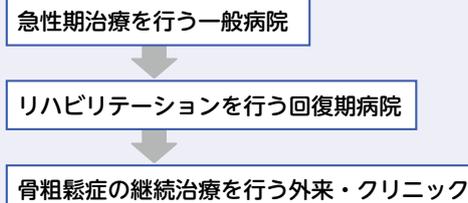


図2

大腿骨近位部骨折地域連携パスとは、大腿骨頸部骨折の治療において、診療にあたる複数の医療機関が、役割分担を含め、あらかじめ診療内容を計画したものです。当院（急性期病院）から回復期病院を経て早期に自宅に帰れるよう、内容としては、施設毎の診療内容と治療経過、最終ゴールなどを診療計画として明示しており、回復期病院では、患者さんがどのような状態で転院してくるかを把握できるため、転院早々

からリハビリが開始できるようになります。また、患者さんにとっては、診療の計画が提示・説明されることにより、安心して医療を受けることができるようになります。このパスによって、患者さんが必要かつ十分な医療を受けられるよう、地域全体で取り組むことを目指しています。ご理解とご協力をお願いいたします。

### 市立砺波総合病院オアシス文庫で

## ボランティアをしてみませんか

市立砺波総合病院の患者文庫「オアシス文庫」では、患者さんを対象に、医療関連図書、コミック誌、文芸書等を貸出しています。貸出、返却のお仕事を担当してくださるボランティアさんを募集中です。

月曜から金曜までの午前中2時間半  
月に2回程度担当できる方



ご興味のある方は遠慮なくお電話ください。  
砺波総合病院 32-3320（内線2380）  
ボランティアコーディネーター もしくは 図書室へ